

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子巣鴨駅前保育園
施設所在地	豊島区巣鴨1-14-8中野ビル2・3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『つくる』 音を作る・感じる

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

室内にある箱や壁を叩いたり、遊びの中でままごとのおたまを用いて叩いてみたり、ままごとの蓋を打ち鳴らして遊んでいる姿が見られるようになった。その姿を見て、色々な道具を使って音が出る楽しさ、音の違いに気づき【音を作る・感じる】に発展することができないかと考えた。また、保育者や友だちと一緒に楽しむことで、他者との違いを感じ、楽しめるようにしたいと考えた。

2.活動スケジュール

【様々な音を楽しむ】

7月 ままごとのなべのふたを打ち鳴らす姿が見られるようになる。壁や空き箱を叩き楽しむ姿が見られるようになる。おたまをバチに見立てて叩いて楽しんでいる。

叩く行為=叩くのを止めるのではなく、子どもたちの様子を観察する。

保育者が「音」についての本を読み合い理解を深める。

8月 壁や箱を叩いている姿を見て、保育者が【たいこのうた】を歌って、たたく楽しさを感じてみる。

力の強さを変えて音の大きい・小さいが分かるように伝える。

「もっとやりたい」と子どもたちからリクエストがある。

9月 壁や棚を叩いている姿に注目し、叩く場所での音の違いなどに気づいてみる。

【手作り楽器の音を楽しむ、様々な楽器に興味をもつ】

10月 太鼓に見立てた箱や新聞紙で作ったバチを使い、みんなで叩いて音の出る楽しさを感じてみる。

11月 自分で作り出した音の違いを感じてみる。

『どんな音がする?』と問いかけたり、様々な音がすることに気付いてみる。

「大きいよ」「小さいよ」と自分の力加減で音の大きさが変わること気が付き楽しんで遊んでいる。

他クラスの楽器遊びを見に行き、より楽器や音に興味をもつ。

「あれやりたい」とカスタネットやすずに興味をもつ。

12月 太鼓以外の物も用意し色々な物を使って音が出る楽しさを感じる(廃材等を使い、オリジナルの楽器を作ってみる)音が鳴ったり、音がでることで様々な音があることを知り、色々な音を作りだすことを楽しむ。楽器(和太鼓、バケツドラム、鈴、ポータブルタンバリン、ミュージックポンプ、トーンタング、ボンゴレット、カホン)を購入する。

【本物の楽器に触れ、音を楽しむ】

1月 本物の楽器にも触れてみる(購入した楽器)

実際に本物の楽器を使って音を鳴らして音の違いを感じてみる。

歌に合わせて鳴らしたり音がでる楽しさを感じる。

「一緒にやろう」と保育者や友だちと一緒に音を出して自分たちなりに演奏することを楽しむ。

2月 活動のまとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

室内 太鼓に見立てた箱、新聞紙で作ったパチを使い、太鼓遊びを楽しむ。シンバルに見立てた空き箱を作成したり、廃材を使ってオリジナルの楽器を作る。実際に音のなる楽器(カスタネット、鈴)にも触れてみる。

他クラスの楽器遊びを見に行く機会を作る。

乳児クラスが扱いやすい楽器を購入し、いつでも「音」についての活動が出来る環境に変更する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1. 棚や空き箱をたいて「音がする」「楽しいね」と音がすることに気が付く。「これも音がするよ」と言いながら様々な場所を手で叩いている。

2. 音に繋がる環境づくり

①他クラスの楽器遊びを見に行き、音についての遊びの変化を観察する。楽器遊びを見ながら、ままごとのお玉やスプーンで叩きながら音を楽しむ。保育者が作ったパチを使い遊んでいる姿を観察する。「これいいの?」「皆使ってたね」と他クラスがパチを使っていたことを思い出し嬉しそうに叩いている。

②部屋にある玩具を使い、オリジナルの楽器を作り「音」を探究する。空き箱を叩いたり、ボトルの中に玩具を入れ振って音を出したりすることを楽しんでいる。他児が作った楽器を見て「それ作りたい」と言い真似てやることを楽しんでいる。

③本物の楽器に触れたり、オリジナルの楽器を使い「音」を探究する。「それやりたい、次貸して」と言いながら様々な楽器を使い音を鳴らすことを楽しんだり、「トントン、トントン」と言いながら保育者や友だちと一緒にリズムを奏でることを楽しんでいる。

楽器コーナーを常設する

3. 「音」について環境や子どもの様子を振り返り、発信する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

子どもたちが棚や箱をたたく姿が見られるようになり、数人の子が叩くことで周りの子どもたちも叩くようになっていた。その様子を観察していくと、音や動きの面白さや叩いたときの「バンバン」という音や、叩いたときの感触、腕を動かす感覚を楽しんでいる様子が見られた。叩いているのを止めるのではなく、保育者が【たいこのうた】を歌いながら、箱をたたく姿をみせると『やるー!』と言って、子どもたちが保育者の元集まり、一緒に叩いたり歌に合わせてたたくことを楽しんでいた。「違う音がする」と箱によって音が違うことに気が付く子がいた。何回かその活動を繰り返していくと、子どもたちから自然と「もっとやりたい」とリクエストがあったり、【たいこのうた】の歌を自分から歌ったりして楽しむようになる。たいこのうたのフレーズで『ちいさなたいこ〜おきなたいこ〜』に合わせて、大きくたたいたり小さく叩いてみせることで、『大きくたたいてみよう』『小さくたたいてみよう』の保育者の問いかけに対して、たたく強さを変えながらたたく姿がみられた。自身の力加減で音の大きさが変わることが付き、「大きいよ」「小さいよ」と音の変化に興味をもつが増えたように感じる。また、たいこのうたをきっかけに、子どもたちから「〇〇のうたがいい」などのリクエストがあり、様々な歌やリズムに合わせて演奏することを楽しんでいた。様々な曲で楽しむことで、最初はあまり興味をもっていなかった子も他児が楽しんでいる姿や、好きな曲を聞き「やりたい」と興味をもって参加をするようになった。まずはたたく音が出来る楽しさから、次は様々な素材や道具を使って音の違いを感じられるようにし、一緒に音を作る楽しさや活動に繋げていった。

【手作り楽器の音を楽しむ、様々な楽器に興味をもつ】

他クラスの楽器遊びを見ることで手ではなく、お玉やスプーンを使い「これ使ってたね」と言いながら音を出すことを楽しんでいる姿を見て新聞紙で太鼓のばちを作った。パチを用意すると「これ、これ」と言いながらリズムよく叩こうとしていた。また、「あれやりたい」と太鼓以外の楽器にも興味をもちオリジナル楽器(カスタネット)を作って遊んだり、ボトルに玩具を詰めマラカスのようにしたりして音を出すことを楽しんでいた。

【本物の楽器に触れ、音を楽しむ】

手作りの楽器での遊びを通して、「あれがいいな(実際の楽器)」「やりたいね」という姿が見られたため、実際の楽器を用意して自由に使えるようにした。本物の楽器を使い音を出して遊ぶことを楽しみながら音の違いやリズムの楽しさに気づく姿が見られた。「かわいい」「うわ、すごい!」と楽器によって音が違うことに気が付き、自分の好きなおとがする楽器を探したり、一つの楽器を使い様々な音の出し方を模索したりする姿が見られた。自分の好きな音や楽器を見つけると、「見ててね」と保育者や友だちに見せている。また、保育者や友だちが出した音と同じ音が出したいときは「どうやるの?」と聞き、音の出し方を聞き真似ることを楽しんでいた。保育者のリズムを真似ながら「いっしょにやろう」と保育者や友だちを誘い、一緒に楽器遊びをすることを楽しんでいる。また、自分でリズムを作り出し、友だちと一緒に合わせることを楽しみながら楽器遊びを行っている。

9月～保育者が作った作り玩具(鈴)を遊びの環境に加える。保育者が口づさむ歌に合わせて振ったりしながら遊び楽しむ。

11月～

たんぼ→10月から「描く」事を経験した子ども達と共に絵の具を使ったスタンプ遊びを環境として設定する。子ども達はすぐに興味を示し自分からやってみようという意思を示していた。スタンプで形が紙に映し出されると「ん!ん!」と指さしをしながら目を輝かせる。「もっとやってみよう?」などと保育者が声を掛けるともう一回と指を指し保育者に伝えていた。

複数回実践をすると、道具を使いこなし描くことを前回よりものびのびと描くことを楽しんだ。

12月～「音との感じる・音を作る」

リトミックを実践していく中で手を叩いたり、しながら音を楽しむ姿も出てきた。玩具のひとつに鈴を以前から加えていた事で手遊びやリトミックの曲に合わせて鈴を振って楽しむ様子が見られていた為

更に楽器(太鼓・タンバリン・ミュージックポンプ)を遊びの環境に加えた。

使い方を遊びの中で知らせていくと自由に打ち鳴らしらり、振ってみたり、鳴らしてみるなどして楽しみ始めた。以前より保育者の歌う歌に合わせて鈴などを鳴らしていたので、楽器が加わってもそれぞれを上手く使い音や音楽を体を使いながら楽しんでいる。また子ども達なりに叩き方やリズムを変化させたり、工夫しようとする様子も出てきている。この教材を加えた事でミュージックポンプを持ってはいはいし自分が動く音が鳴ることを自ら発見した子も見られ始める。更には太鼓のばちで床を打って太鼓との音の違いを見つけるなど、音を探究する様子が出てきている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

壁や棚を叩くことが楽しい・面白いと感じていたため、遊びに繋げて行うことで子どもたちの楽しい思いを尊重しながら、叩いたり音を出したりする楽しさを共有することができた。音の違いや音の大きさや小ささの変化に感じることができ、大きな音の時はダイナミックに腕を使って音をだし、小さい音の時は小さく動かし、音の強弱、力加減を感じていた。また、活動を通して歌を歌うことが増えたり、保育者の声の大きさに合わせて出す音の大きさや自身の声の大きさを変えようとする姿が見られた。太鼓や楽器を用いて音を感じる経験をさせることで子どもたちの欲求を満たしながら活動を広げられるようにしたことで、壁や棚等を叩く姿が少なくなった。当初この活動を始めた時は壁や物を叩いて満足して、すぐにその場から散ってしまうことが多く見られた。しかし、色々な活動や遊びを経て本物の楽器遊びで触れた時に、自分たちで音を鳴らす楽しさを感じている姿が見られるようになり、楽器遊びを長い時間じっくりと遊ぶ姿が見られるようになったと感じる。また、色々な種類の楽器があることで、自分で好きな楽器を選び楽しめたのではないかとと思う。様々な素材や物を通して、色々な音の違いを発見し音をつくるという活動に発展させたり、本物やオリジナルの楽器を使ったり、みんなで歌を歌いながら歌に合わせて楽器を鳴らすことで様々な音を保育者や友だちと一緒に作り奏でることや、自身の音と他者との音の違いに気が付き、違いを互いに認め楽しめるようにしていきたい。